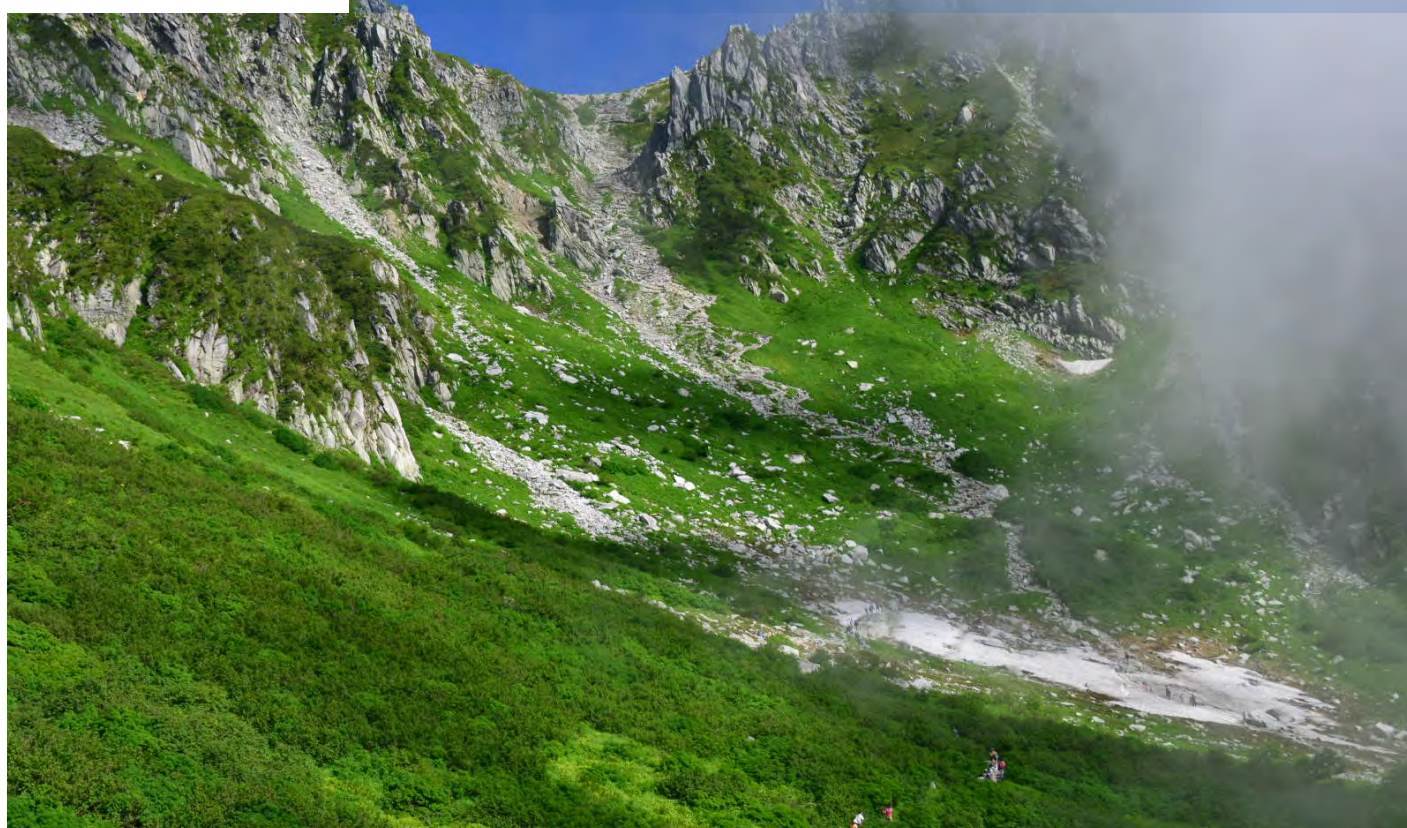




木曾駒ヶ岳

撮影 徳田名誉院長

CONTENTS

特集 『 糖尿病 』

7 月に赴任した北村 卓也 内科部長の専門分野である糖尿病について、ご挨拶も兼ねまして糖尿病診療の今と、当院の取組みをご紹介します。

News & Topics

新任医師のご紹介

『 糖尿病診療は進歩したのか？ 』

皆様はじめまして。内科医の北村卓也と申します。
7月から赴任しました。専門分野は糖尿病です。

はじめに

先日、ある製薬会社の方々に「糖尿病患者に対してどんなイメージをもちますか？」と尋ねました。「食事・運動療法をきちんと守ることができない」、「だらしない感じ」などあまり良くないイメージがあるようでした。私がたくさんの患者さんとお会いしてきて思うのは、「糖尿病の患者さんのセルフコントロール（自己抑制）能力は一般の方々と何ら変わりはない」ということです。2型糖尿病は「主にインスリンの分泌不全と作用不全を基盤とする疾患」です。本人の思考・行動は病態に影響を与えますが、疾患の中心をなすものではありません。

糖尿病診療は進歩したのか？

①疾患に関する情報の増加

糖尿病に限りませんが、疫学・基礎・臨床研究などから多くの有用な知見が示されています。

心血管病、癌、認知症などとの関連性や、ただ単に血糖・HbA1c を下げればよいのではない、などの知見です。

こうした知見の多くは、ある一定の糖尿病患者の集団の傾向です。実際の診療では、患者さんを集団ではなく、個別にみていくなかで新しい知見を適切に活用したいと思います。



②糖尿病治療薬の増加

内服薬・注射薬とも随分増えました。薬の開発は学問・技術の進歩のおかげです。薬が多いため「どの薬にしたらいいのかよく分からない」ということもあるかもしれません。ただ、糖尿病の病像は多様であり、私たちにとって薬の選択肢が多いことは助けになります。新しい薬を使った糖尿病治療は、専門家だけの特殊な医療ではなく、どの地域・医療機関でも可能です。こうした利点を適切に生かすことができればと思います。

③人の思考・行動

糖尿病の改善には、適切な食生活や運動が望ましいことは言うまでもありません。食事・運動は人の行動であり、その行動を支えるのは思考です。疾患について情報が増え、薬が増えましたが、人の思考や行動は進歩したのでしょうか。糖尿病診療を通じて、患者さんに食事や運動の話をしますが、実践はなかなか難しいと感じます。自分がきちんとするのも簡単ではありません。人の心理や行動に目を向け、何が人の行動を変えるのか・良い指導とは何かを学び続ける必要性を感じます。



最後に

私は津山にゆかりはないのですが、国道53号線は幾度となく通っています。最近、家族で那岐山、夏にプール、そして春の加茂郷マラソンには4年前から毎年出場しています。

津山の医療を支えておられる諸先生方の診療に少しでもお役に立てるよう、尽力する所存です。どうぞご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。



『 糖尿病患者さんへの療養支援 』

病棟に所属し、糖尿病患者さんの入院から退院後まで継続した療養支援を行っております。糖尿病は自覚症状がないため、かなり進行し入院となる患者さんも多く、中には眼底出血や足壊疽といった合併症を発症し入院する方もおられます。また急性発症の1型糖尿病では小児の患者さんもおられます。糖尿病患者さんの多くは治療として、インスリン自己注射や自己血糖測定が必要となり、日常生活の中で折り合いをつけながら生活をしていかなければなりません。そういった患者さんの思いに寄り添い、インスリンのある生活や食事療法のある生活を前向きに考えていけるよう、一緒に取り組んでいきたいと常々思っております。

当院での入院中の糖尿病患者さんへの支援として、糖尿病の治療やその必要性などを糖尿病教室の参加・ビデオ学習・栄養指導等により行っておりますが、患者さんのライフスタイル・個性性を考慮し、行う事が大切ではないかと思っています。そのために医師・看護師・栄養士・薬剤師と多職種でカンファレンスを行い、患者さんの治療方針の共有や細かい療養生活の調整をおこなっています。



多職種によるカンファレンスの様子



当院の糖尿病チームは、医師を中心とし糖尿病療養指導士という糖尿病とその療養指導の専門資格を持った看護師（7名）・管理栄養士（2名）・薬剤師（2名）がいます。他にも臨床検査技師、理学療法士、歯科衛生士がそれぞれ患者さんに必要な療養支援の提供をおこなっています。

入院中患者さんが頑張って改善された事が退院後も継続できるよう、療養相談外来を行っております。患者さんが退院後、不安に思っていることのひとつに、食事療法があります。栄養士と一緒に療養相談外来を行い、出来るだけその人に合ったサポートができるように取り組んでいるところです。“糖尿病がありながら、その人らしく生活できる”を目標として、患者さんを支援していきたいと考えております。これからも糖尿病チームで連携し、療養を続ける患者さんのサポート体制を確立できるよう努力していきたいと思っています。



3階西病棟 糖尿病看護認定看護師
糖尿病療養指導士

保田 司

●フットケアとは？

フットケアとは、足の手入れ法であり、高齢者・糖尿病患者のQOLを向上するために、大変重要なものです。高齢者の増加、糖尿病人口の増加に比例し、合併症を発症する糖尿病患者さんが増えています。3大合併症のひとつである神経障害が進むと足の感覚が低下し、痛みや痒みを感じにくくなり、傷・火傷に気づきにくくなります。高血糖状態の持続は身体の免疫力を低下させ、細菌や真菌（水虫）などに感染しやすく、足や爪が変形し「足病変」を起こします。血管障害である末梢動脈性疾患（PAD）では足の血管がつまり、傷が治りにくくなり潰瘍や壊疽を引きおこし、足の切断にまで至るケースが年間 1 万人以上に上ると言われています。足切断は患者さんのADLやQOLを低下させるだけではなく、その人の生命予後にまで大きく影響します。

足病変はほんの些細なことから始まります。外的要因による足潰瘍の発生原因は7割が「靴ずれ」次に火傷（19%）、外傷（7%）、感染症（3%）となっています。「小さな足のトラブル」が下肢切断に至ることのないよう、当院でもフットケアチームを立ち上げ、5月からフットケア外来を開始しています。

津山中央病院フットケアチーム



看護師 山本 千春 心臓血管外科部長 久保 陽司 循環器内科医長 山中 俊明 看護師 保田 司

●フットケア外来での診療

フットケア外来は看護外来の一つで、専門分野の認定看護師（糖尿病看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師）による診療を行っています。当院での主担当科は心臓血管外科・循環器内科ですが、その他にも足病変に関係する領域として、形成外科、整形外科、糖尿病内科、皮膚科、腎臓内科、リハビリなど多科にわたります。それらを統合し、トータルフットケアとして治療を行って



フットケア外来風景

おります。足に対する適切な診断と治療を行うために、ABI検査（足関節上腕血圧比）やSPPT検査（皮膚組織灌流圧）などで血流評価を行ったうえで、足の傷に対する適切な管理・処置を行っていきます。また爪、胼胝、魚の目等の処置を行い、ADLやQOLを向上させます。現在は糖尿病があり足に創傷がある、重症下肢虚血、足病変ハイリスク要因のある患者さんの足を主として診療しております。早期に対応し治療を行うことで患者さんの救肢につなげるよう体制の充実を図っています。

●自分の足を自分で守るために

足の治療をするだけでなく、予防も非常に大切であり、患者さん自身が足病変に早期に気づき、予防できるよう専門分野の認定看護師がセルフケア指導を行っています。患者さんやご家族の意向を聴きながら一緒に足の観察を行い、その人に必要なケア方法の提供を行っています。また自宅での毎日のケアの継続が、患者さんの足の状態にも大きく影響します。患者さんが無理せず続けられるよう励ましながら行っております。

また、足に合った靴や装具の選択も足を守るためには重要です。医師・看護師・理学療法士が連携し情報提供を行っています。

足切断のリスクを回避し自分の足で生活できるよう、私達は患者さんをサポートしていきたいと考えています。

- 足の傷が治りにくい
- 足の感覚が鈍い
- 足先の血行不良（冷え）
- 爪のトラブル
- 皮膚のトラブル

など気になる足のお悩みは私達にご相談ください！！

Tel0868-21-8111

フットケア外来まで



第15回日本フットケア学会にて

フットケア外来のご案内

平成29年5月からフットケア外来を開始しました。
糖尿病患者さんや透析患者さんは足のトラブルを起こしやすく、早めに適切な治療をすることや早期発見が大切です。

場所

2階ペインクリニック

日時

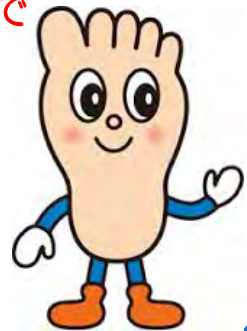
火曜日 13時～17時
完全予約制となっています
フットケア外来担当看護師まで

担当医

心臓血管外科：久保Dr
循環器内科：山中Dr

担当看護師

保田・山本



足の傷の治療
爪切り、タコや魚の目処置
足のお手入れ方法について
説明します。

- 足の傷が治りにくい
- 足指の感覚が鈍い
- 足先の血行不良(冷え)
- 爪のトラブル
- 皮膚のトラブル

など気になる足のお悩みは私達に相談ください！！

新任医師のお知らせ

8月1日付

○放射線科部長

丹羽 康江（にわ やすえ）

○専門分野

放射線治療（粒子線治療）、高気圧酸素治療

○専門医等

日本高気圧環境・潜水医学会 評議員、学術委員
近畿地方会 理事



外来診療担当医の変更について

津山中央病院 外科に変更がありました。別紙、外来診療担当医表にてご確認ください。ホームページ（<http://www.tch.or.jp>）でもご覧いただけます。

研究会、教室のご案内

■美作地区胸腹部画像診断研究会

日時／通常毎月第4金曜日 19:00～（8・12月を除く）

場所／津山中央病院 医療研修センター 2階講義室

※変更がある場合がございますので、詳細はお問合わせ下さい



■津山中央記念病院 糖尿病教室

日時／毎週火・水曜日 13:30～（30～60分程度）

場所／津山中央記念病院 2階会議室

■津山中央病院 糖尿病教室

日時／毎週月曜日 13:00～14:00

場所／津山中央健康管理センター 3階
A会議室

CCセミナー（地域連携セミナー）のご案内（8月・9月）

当院では、地域連携セミナーとして、CCセミナーを開催しています。
地域の医療従事者の方に自由にご参加いただけます。

日時：平成29年8月5日（土）14:00～15:30

内容：『点と線 ～成長曲線からわかること～』

講師：鳥取大学医学部 周産期・小児医学

場所：慈風会記念ホール 教授 神崎 晋 先生

日時：平成29年8月8日（火）19:00～20:30

内容：『不眠の診たてと対応』

～非精神科の臨床家のために～

講師：岡山大学病院 医歯薬学総合研究科 精神神経病態学

教授 山田了士 先生

場所：慈風会記念ホール

日時：平成29年8月23日（水）19:00～20:10

内容：『胃がん化学療法の治療戦略』

～患者さんにBestを届ける～

講師：市立豊中病院 消化器外科部長 今村 博司 先生

場所：慈風会記念ホール

日時：平成29年9月7日（木）18:30～

内容：『第2回地域医療連携交流会』

主催：岡山大学病院 頭頸部がんセンター

場所：慈風会記念ホール

※本件は事前申込が必要ですのでご注意ください。

私たち津山慈風会は、
地域の皆さんに
やさしく寄り添います

津山中央病院 地域連携室
〒708-0841 津山市川崎 1756
TEL 0868-21-8111 FAX 0868-21-8201
メール tcmn@tch.or.jp
HP <http://www.tch.or.jp>